

海外安全対策情報（バーレーン：2017年1月～3月）

1 社会・治安情勢

本年1月の刑務所襲撃・集団脱走事件を契機に、シーア派地区内において、警察官を狙った爆弾テロ事件や銃撃事件が続発し、死傷者が出ている状況であることから、これら巻き込まれないよう十分注意する必要がある。

また昨年来、反政府系政治団体「ウィファーク」の活動停止処分、シーア派聖職者・団体等に対する当局の捜索及び人権団体指導者の逮捕等、反政府的な活動を行っている団体・指導者に対する取締りを強力に進めていることから、これに反発するデモ等の抗議活動がシーア派各地区で続いている状況である。

ただし、同抗議活動は、シーア派地区内のみで収まっており、拡大波及する情勢ではないものの、慎重に推移を注視する必要がある。

なお、シーア派地区を除けば、一般犯罪は少なく、比較的治安は良いといえる。

【シーア派過激派の動向】

2011年以降、反政府グループによるデモ活動は、各シーア派地区内で継続している状況である。なお、一部のデモは過激化し、火炎瓶や石等の投てきを行い、治安部隊が催涙弾やショットガン（散弾銃）で対処するという衝突が度々発生しており、一般人が巻き込まれることは少ないが、引き続き警戒は必要である。このほか、道路上でのタイヤ放火やガレキ放置等による治安を混乱させる動向も継続している。

【I S I L（ダーイッシュ）関係】

一昨年5月22日、29日のサウジアラビア、6月26日のクウェートにおいて、シーア派モスクを狙った爆弾テロ事件が発生したことにより、バーレーン治安当局は、国内の全てのモスクについて、警察官を配置、入場者のチェック、礼拝終了ごとのモスクの閉鎖、監視カメラの設置、モスクの自主警備の許可及び警備・救護訓練の実施等の警戒強化を実施している。

しかし、一昨年10月16日（金）、サウジアラビア・東部州のシーア派モスクにおける銃撃テロにより、5名が死亡、9名が負傷した事件では、「イスラム国（I S I L）バーレーン州」が犯行声明を出し、同日、国内2ヶ所のイスラム教シーア派関連施設が銃撃されるという事件が発生した。また、昨年12月、I S I Lは、バーレーン駐在の米国をはじめとする各国軍及びバーレーン国内のシーア派に対

する攻撃を呼びかける動画をインターネット上に公開したこと等、国内にI S I Lの影響を少なからず受けている者の存在が取りざたされている。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 基本的に一般犯罪は少なく、在留邦人が被害に遭うことはまれであるが、殺人、強盗、強姦といった凶悪犯罪の発生は確認されていることから、十分注意した上で、自己防衛に心がける必要がある。

(2) 邦人被害事案

なし

3 テロ・爆弾事件等の発生状況

(1) 1月1日(日)午前5時30分頃、機関銃等で武装した数名のグループが、ジョー地区の受刑者収容所を襲撃し、テロ犯罪等で終身刑等の受刑者10人が逃走。警察官1名死亡、1名負傷。

(2) 1月11日(水)夜、シトラ警察署に対し、群衆が火炎瓶・投石等により襲撃し、警察が催涙ガス弾等で応戦。催涙ガス弾を被弾した少年1人が重傷。

(3) 1月14日(土)、死刑囚3人の死刑が執行されるという噂がソーシャルメディア上に広がり、シーア派各地で抗議デモが行われた。

(4) 1月14日(土)夜、バニ・ジャムラにおいて、警察官1名が銃で撃たれ重傷。

(5) 1月15日(日)、死刑囚3人の死刑が執行されたことに対し、シーア派各地区(バニ・ジャムラ、ディラズ、デイエ、サナビス、ヌウェイドラート、シトラ等)で抗議デモ。同日午後3時頃から、サナビスにおいて、死刑囚の追悼集会が行われ、数百人以上が参集。その後、連日にわたり、各地で抗議デモが続く。

(6) 1月16日(月)午前5時45分頃、5人の武装した襲撃犯が、アーリ地区の北部県役所内に侵入、ガスボンベを爆発させ、建物を損壊する事件が発生。

(7) 1月17日(水)午後11時頃、シトラ地区の路上において、ガスボンベを爆発させ、周囲の建物を損壊する事件が発生。

(8) 1月26日(木)、治安部隊がディラズ地区内に立ち入り捜査を実施。反政府住民との衝突があり、負傷者が出た模様。

(9) 1月28日(土)、ビラード・アル・カディーム地区において非番の警察官が射殺される事件が発生。

(10) 2月4日(土)、シャクラ地区ブダイヤハイウェイにおいて、爆発物が爆発する事件が発生し、車両数台が損傷したが、負傷者等なし。

- (11) 2月7日(火), シトラ地区において, 爆発事件が発生。ガスシリンダーを使用したものと思われる。
- (12) 2月9日(木), 内務省は, 刑務所襲撃・脱走事件の逃走者の一部逮捕・射殺を発表。その後, 射殺された逃亡者の追悼デモが各地で行われた。
- (13) 2月14日(火), 騒擾6周年デモが各地で行われるも, シーア派地区内のみで封じ込まれており, 地区外への波及はなかった。
- (14) 2月14日(火), シトラ地区, 爆弾テロ事件。通行中の車両に破片が当たり, 民間人2名が負傷。
- (15) 2月20日(月), 昨年ヒッド地区のドライ・ドック刑務所から脱走した22歳の逃走犯が, ヌエイドラートにおいて, 警察から逃走中, ビルから転落して死亡。
- (16) 2月21日(火), 内務省は, 20人のテロリスト逮捕を発表。
- (17) 2月23日(木), サナビス地区, 爆弾テロ事件発生, 付近の車両に破片が直撃, 民間女性1名負傷。
- (18) 2月24日(金), シャクラ地区, 爆弾テロ事件発生, 警察車両1台・民間車両2台損傷, 負傷者なし。
- (19) 2月26日(日), ジョー地区, 警察官搬送バスが狙われる爆弾テロ事件が発生し, 警察官5名負傷。
- (20) 3月4日(土), 検察庁が, テロ容疑者54人の起訴を発表。12人はイラン・イラク, 1人はドイツ, 41人はバーレーンに所在し, そのうち25人を逮捕した。54人のうち10人は, ジョー刑務所の脱走囚。なおここ数ヶ月のオペレーションにより, カラシニコフ銃4丁, けん銃7丁, 銃弾292個, 弾倉11個, 爆発物19個, 雷管96個, ドローン1台のほか, 車数台, 船舶数隻を押収した。
- (21) 3月15日(水)早朝, サルマバード地区において, 警戒中の警察官車両に対するカラシニコフ銃による銃撃事件発生。負傷者なし。警察車両一部損壊。
- (22) 3月24日(金), 治安部隊に撃たれた18歳の男性が死亡。カルババード地区等で追悼集会が行われ, 一部で衝突が発生。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

日本人の被害は報告されていない。

5 日本企業の安全に関する諸問題

シーア派地区に立ち入らないこと, またテロの対象となり得るモスク等宗教関連施設や警戒中の警察官, 警察車両には近付かないことを徹底するとともに, 不

特定多数の人々が集まる施設（レストラン、ショッピングモール、ホテル、観光施設、市場等）を訪れる際には、周囲の状況に注意を払い、不審な状況を察知したら、直ちにその場を離れるなど安全確保に十分注意する必要がある。

また2011年の騒擾のように、社会・治安情勢が急激に悪化した場合の対応について、準備しておく必要がある。特に、大使館との連絡手段の確保（緊急連絡網、Eメール、無線機、FMラジオ等）、緊急時の国外退避方法について、日頃から準備と確認をしておくことが重要である。

以 上